一、原因

1. 民族意識昂揚自治運動と排共運動

蒙古民族復興の機運は、北支那自治運動勃發以前から燎原の火と燃え、内蒙古在住數千萬の蒙古民族は夙に國民政府に自治の要求を提出し、強固なる主張の下に其の結束も愈々鞏固なるものがあつたので國民政府としては蒙古民族懷柔の必要を認め、其の自治組織を諒認してたのが昭和九年三月正式に成立した内蒙古政務委員會（蒙政會と略稱する）であつた。滿洲國と内蒙とは熱河省及興安南省等に蒙古人居住しあり一方蒙古人は漢民族の壓迫を受けあり殊に當時蘇聯の魔手は外蒙より逐次内蒙方面に延びつつあり十年十二月土肥原泰德純協定に依り外長城以北の察哈爾省は蒙政會の勢力下に入り斯る内蒙古に於ける治安の情勢は亦關東軍の關心事となつてゐた。

2. 蒙政會に經境蒙政會の對立

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

蒙政會の組織はその委員會總署を百靈廟に置き、錫林郭勒盟（シリンゴル盟）伊古昭盟（イクオジョ盟）寧夏蒙旗、察哈爾部の各地委員を以て組織し錫林郭勒盟長、德王が委員長として、蒙政會直轄軍を隷屬せしめて、蒙古民族自治獲得のため中央に向つて、積極政策を遂行しつつあつたのである。

然るに之に對して國民政府は蒙政會の出現を是認しながら、之れが發展を好まず、或は自治區域の問題や財源問題に關聯して、兎角圓滑を缺くこと尠からざる實狀に鑑み、內蒙古懷柔を一層强化する目的を以て、別に綏遠省內蒙古各盟旗地方自治政務委員會なるものを設置して、德王の蒙政會と桔抗せしめることとしたものである。綏遠省境內蒙古各盟旗地方自治政務委員會（以下綏遠蒙政會と略稱す）は昭和十一年一月二十五日結成され、烏蘭察布（ウランチャブ）、伊古昭盟所屬各旗歸化土默特旗、綏東五縣及び察哈爾右翼四旗の自治を目的とし、委員十五名、沙克都爾札布の沙王が委員長に任命された。固より綏境蒙政會の設置は、德王の蒙政會を事實上抹殺せんとするのが目的で

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

あるから、之れが指導長官竹錫山、直接監督者傅作義（綏遠省主席）は事毎に蒙政會壓迫の態度に出たので勢ひ德王と傅作義との關係は尖鋭化を免れない狀勢に置かれた、所謂綏東事件は斯くの如き情勢の惡化が齎らした必然的な民族闘爭の爆發である

二、經緯

イ、蒙政會の蹶起と綏遠省政府に對する要求

綏遠省主席傅作義は蒙政會潰滅を目指してあらゆる彈壓と謀略を試み、同會の内部崩潰までも策し遂に德王暗殺計畫までに事態が發展したために、蒙政會も猶豫すべきにあらずとして、十一月九日（昭和十一年）綏遠省政府に對し五ヶ條の要求を提出して、事態を平和裡に解決しやうとしたが、傅作義は遂に德王に對して

内蒙の時局は貴下が某方面の使嗾を受けて察哈爾省の六旗を手中に收めた事に端を發してゐる。貴下は速かに之れを察哈爾省に返還して中央の命令に服從すべきことを勧告する。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

との勧告文を寄せて來たので、德王も最後の肚を決し、武力を以て綏遠帰討の決意の下に同月十五日遂に軍事行動を開始したのである

蒙政軍は總司令部を德化に置き、第一軍と商都に第二軍は百靈廟に主力を集中し、空軍と策應して果敢なる攻撃体勢をとると同時に總司令德王、副司令卓王名を以て、十九日各方面に次の如き通電を發して蒙政軍蹶起の趣旨を闡明した。

通電内容

即ち過去二十年間に於ける南京政府の政治的蒙古壓迫及び地域的蒙古侵略蝕か、如何に蒙古民族の生活を窮迫せしめたかを述べた後

一、綏遠省政府は約に背き蒙古民衆からの徵稅收入を蒙政會に交付せず

二、蒙旗内部の不平分子を使嗾買收し屢々内訌を起さしめ多數の蒙古人を殺戮せり

三、蒙政會は全蒙古統治の最高機關たるに拘らず。之れを消滅す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

べく中央に事實を捏造して綏境蒙政會を設立せしめたり、

四、蒙古を敵視して百靈廟を包圍せる軍事施設をなし、食糧、燃料の輸送を禁止して蒙古民衆を重大危地に陷れたり。

此の事實より本月九日蒙政會は綏遠省政府に對して

一、察哈爾右翼旗を即時蒙政會に返還すること

二、各地の軍事施設一切を撤廢すること

三、蒙政會保安隊より强奪せる武器を即時返還すること

四、蒙政會經費未交付金二十萬元を即時支拂ふこと

五、過般兵變を起せる蒙政會返逆者を即時引渡すこと

との要求を提出したるも何等回答なく、依然として蒙古侵蝕の歩を進めつつあり、綏遠省政府は實に蒙古の發達を妨害し蒙古民族の生活を破壞するものである。故に全蒙古各盟長、旗長等集議の結果德王を蒙古軍總司令とし、卓王を同副司令として綏遠省掃討の重任を負はしめ行動を開始したのである。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

我等は蒙古人による完全な蒙古統治を求むるもので中央より離脱を圖るものにあらず、また蒙漢兩民族の闘争にもあらず唯だ綏遠掃討にあるのみである。

蒙政會委員長兼蒙古軍總司令　德王
同　副委員長兼　副司令　卓王

2.

行動概要

斯くして内蒙軍と綏遠軍とは綏東方面に於いて先づ火蓋を切つた。綏遠軍も總司令部を平地泉に置き傅作義を中心に王靖國、趙承綬、李服膺、各軍を綏遠省一帯に配備し、蔣介石も亦十月下旬の軍事會議に基いて、綏遠工作のために一動匪と稱して一二十數萬の中央軍を北上せしめ、蒙古並に冀察政權に對する包圍陣形を整へ、一石二鳥の政治工作態勢を完了し、十一月十八日には太原に於て「前線各將士に告ぐるの書」と題して極力士氣の鼓舞に當る等、この所大童べであつた。而かもこの宣傳工作は大衆に藥が効つて、傅作義は綏遠の英雄になりすまし、綏遠工作義金募集運動まで起り、一方蒙古民族

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

攻撃の背後目的を目指して、排日運動が俄然活潑となつたのは此の事件の特色とも言ひ得るであらう。

3. 百靈廟喪失

蒙古軍は德王總司令の下に二軍九師約一萬八千を以て先づ紅格爾圖、興和の戰鬪に於て德作義軍に大勝を博したので、勢を得て前進を開始したが、綏遠軍は十一月二十四日朔國一個師を以て蒙古軍の手薄な「番兵百五十余名」百靈廟に殺到し之れを占領した。

茲に於てか支那中央軍側は百靈廟攻略を以て、綏東事件全面的の優勝なりと呼稱して之れを全國に宣傳し、蔣介石は十一月二十九日同軍總司令陳誠及び綏遠省主席傅作義に對し「百靈廟を確保すると否とは國家の安危に關するところなるを以て全力を盡して防禦せよ」との最重命令を發して、恰も蒙古軍の背後に滿洲軍及び我が關東軍があるに拘らず是等を一括して總退却せしめたが如き宣傳を以て、國内の士氣鼓舞の具に供したのであつた。尤も百靈廟攻略戰は確か

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

に支那側の氣勢を遽かに高めたことは事實であり、蒙古軍にとつては相當の痛手であつたので、德王は十一月二十九日夜西蒙尼特の嘉十寺に於て緊急最高軍事會議を開催し、百靈廟奪還の作戰方略を議決して、全線前擊開始を命令したが然し戰況惡化して蒙古軍に利あらず、王英軍部下の寢返り等のために、十二月十日には百靈廟奪回の根據地たる大廟子が綏遠軍騎兵隊の占領するところとなつた。

三、結末

然るに十二月十二日、突如として發生せる西安事件のため、南京政府は極度の狼狽混亂を惹むる危機に直面したので、德王は全蒙古民族存廢を賭して、反擊決意を固めた折柄でもあつたが「相手方の狼狽に乘じて事を爲すは丈夫の爲すべき業に非ず」として十二月下旬德化に李守信、王英等の將領を召集して、軍事會議を開き協議の結果、同日二十日次の如き停戰通電を發して、公正なる態度を中外に宣示した。

（停戰通電）世界人類共同の敵である共產主義の排撃に就ては、綏遠

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

並に山西當局も全然我が軍と同意見を確信する。されど從來防共の熱意と手段に於ては我々と一致しない點があつて、遂に今次戰を交ゆるに至つた。然るに西安事件を契機として今や支那は容共排共の二大分野に分れるに至つてゐる。斯の如き事態に於て主義を同一にしながら手段、熱意の點に於て異なるだけで依然紛爭を續けるは、排共の陣營から見れば、角を矯めて牛を殺すの結果となる惧れがある。この見地から我軍はこの際鋒を收めて綏遠山西の自覺を促し、共にその目的たる排共工作をとつて行きたいと考へる、然し綏遠山西にして此理を解せず、我軍の進擊停止を以て却て何等かの策あるものの如く邪推し、或は我軍の兵備の劣弱なるかの如く誤解して、依然從來の態度を持續し、大乘的見地に基く赤化防止の共同動作を拒否するに於ては、我軍は已むなく再び鋒をとつて其蒙を啓かざるを得ない。

右の如き德王の自發的停戰宣言は、支那が西安事件處置に沒頭してゐ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

る限り、各方面から寧ろ賛讃さるる結果となり、百靈廟問題を契機として一時發展的危惧を想はしめた本事件で茲に全く終熄する形勢となつたのである。

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp